

# 道徳教育地域支援委託事業実施報告書（令和6年度）

## 1 学校の概要

- (1) 学校名 観音寺市立大野原小学校  
(2) 所在地 香川県観音寺市大野原町大野原1905番地  
(3) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援学級	児童生徒数計	教員
2学級 55名	3学級 83名	3学級 86名	3学級 99名	2学級 77名	3学級 96名	5学級 30名	496名	31名

## 2 研究主題等

### (1) 研究主題

主体的に考え、共に高め合う児童の育成  
～きくことから思考を深める授業づくり～

### (2) 研究主題設定の理由

本校の児童は、明るく素直で、与えられた課題にはまじめに取り組むが、その一方で、進んで人とかわること、人の立場に立つこと 夢や目標をもち自らを律し努力していくことには消極的な面がうかがえる。そこで、「夢出せ！知恵出せ！元気出せ！！」をスローガンとして、道徳や「新ふるさとの心」の学習、学校や地域の人とのかかわりを通して豊かな心を育み、「やさしく かしこく たくましく」生活する子どもの育成をめざしている。

特に、校内研修では、「きくこと」に焦点化し、思考ツールや ICT を活用して学びを深めたり、見方や考え方を働かせたりする子どもを育むための指導について研究を深めていきたいと考え、本主題を設定した。

### (3) 研究内容及び方法

視点1 きき合い、道徳的諸価値について理解を深めるための指導の工夫 視点2 自己を見つめたり、多面的・多角的に考えたりするための支援の工夫 視点3 「自己の生き方について考えを深める」時間の設定
---

## 3 研究実践

### 視点1 きき合い、道徳的諸価値について理解を深めるための指導の工夫

#### (1) きき合うためのスキルを高める指導の工夫

きき合う活動とは、「一人ひとりの考えをきき合い、質問や意見を通して自分の考えをより明確にする活動」であると捉えている。きき合うときには、受容的な学習の風土づくりがなされ、友だちの考えを認める優しい雰囲気、安心して発言できる雰囲気づくりをするよう力を入れている。

「きき合う活動」の際、「受容的にきくこと」、「肯定的にきくこと」、「考えをつなぎながらきくこと」を意識するために次のようなことに取り組んでいる。

## ア きき合うためのスキルアップのために

### ① 受容的にきく

「友だちの意見を受容的にきく」ために、「きき方名人」の活動を取り入れ、きくときに留意する点を明確にしたり、「あいづちあいいうえお」の取組で、学級全員で認め合いながら話し合ったりして受容的にきく風土づくりを行った。

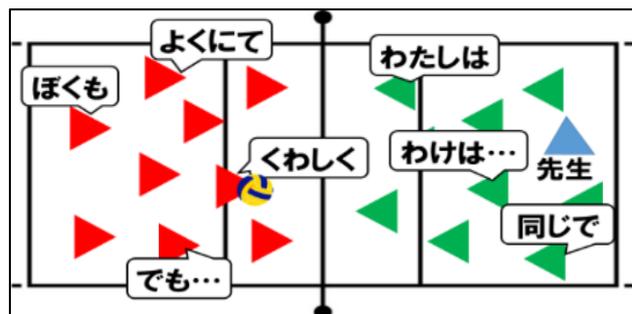


【あいづちしながら】

### ② 肯定的にきく

### ③ 考えをつなぎながらきく

全校集会で、学習指導部の教員が、「きき方」や「バレーボールのパスのように、友だちの考えをきいてつないで発表すること」を提案し、児童とともに授業づくりを行ってきた。積極的に実践しようとする児童を中心に、教師もモデルとなり、考えを比較することを通して、話し合う内容を深める経験を積み重ねてきた。



【リレー発表で、全員でつなぐ】



【全校集会で6年生がつなぐ発表のモデル】

6年生が、全校集会で、「『リレー言葉』を使って、みんなの考えをつなげよう」と、模範を示し、呼びかけた。あこがれの6年生が提案することで、全校生が主体的に取り組もうと意欲が高まった。

## イ きき合うスキルトレーニング：朝のきき合いタイム

スキルトレーニングとして、朝の活動時に、「きき合いタイム」に取り組んでいる。各学年の発達段階に応じたテーマについて、自分の意見を持ち、理由をきき合う活動である。その際、全員でつないだり、思考ツールやICT機器を使って、考えを整理して話したりと活動を工夫するようにしている。自分の考えと比べながらきき合うことで、異なる考えに気付き、話し合いのおもしろさを実感し、「きき合いタイム」を楽しみにしている児童が多くなっている。



【全員でつなぎながら】



【思考ツールを使いながら】



【司会を進めながら】

## (2) 道徳的諸価値の理解を深めるための「きき合う活動」のあり方

### ア きき合う活動

きき合う活動とは、授業の展開部分で、道徳的諸価値について「一人一人の考えをきき合い、質問や友達の意見を通して多面的・多角的に話し合い、自分の考えをより深める活動」として行っている。人間理解や他者理解においても、人間の弱さなどを実感したり、自己内対話をしたりするうえで有効に働くと考える。また、友だちの考えとの相違点を捉え、多様な考えを知り、自己を見つめたり、多面的・多角的に考えたりすることができるようにする。さらに学びを深めるために、問い返しを行うことで価値理解をめざし、自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践へ向かわせる活動としていく。

### イ 授業の流れ

The graphic illustrates the lesson flow with several key activities and their descriptions:

- 振り返り【内容項目と自己をつなぎ、自己の生き方を考える活動】**
  - 友だちの考えを聞いて、思ったことや考えたことを話す。
  - 友だちの考えを聞いて、変容したことを話す。
  - 今日のためあてについて、自分が考えたことや考えを深めたことを話す。
- ★ 多面的・多角的に話し合う・友だちの考えをきいて、思ったことを話し合ったり、考えの変容をきき合ったりする。**
  - 高学年・・・ダイアログしながら道徳的価値項目に迫る。
  - 登場人物の思いを付箋に書き、グループで対比しながら気持ちの変化を考え話し合う。など
  - 協同学習
  - ペア・グループ・全体で議論する。
- 【道徳的諸価値の理解を深める時間】**
  - 思考ツールを使って、考えの変容や考えの相違を話し合い、整理しながら話し合う。
  - 「なぜそう思ったのか」「なぜ変わったのか」を問いつつ話し合う。
  - 役割演技しながら考え、結果を想定したり相手の立場を考えたりして話し合う。
  - ペア・グループ・全体で議論する。
- 【一人一人が考えを整理し、共有する時間】**
  - 思考ツールを使って、児童の思考を可視化する。
  - ★ 多面的・多角的に話し合う・友だちの考えを知る→自分と比べる→相違点に気づく→自分の考えを振り返る
- 【教材を把握し、課題をつかむ活動】**
  - パネルシアターや紙芝居をしながら教材に浸らせる。
  - 教材を読んだ後、初発の感想を話し合う。
  - 登場人物の関係を整理したり図に表したりする。
- 導入【自己を見つめる活動】**
  - アンケートを提示する。
  - 内容項目について話し合う。(「正直」とはどんなことか)
  - 自分を振り返り、語る。

### ウ きき合う活動の実際

#### ○ 役割演技

児童が教材と実際の生活を結びつけて考えられるような場面で役割演技を設定し、実際の生活の場で思考を深めることができるよう工夫する。



【2年 子だぬきポン】

## ○ ペアやグループできき合う時間

目的に応じた小集団設定を行い、道徳的諸価値の理解が深められるようにきき合う時間を設定する。「何について」「どのように」「どのように」きき合うことが有効か、教材分析を行い、授業づくりをしている。



【1年 かぼちゃのつる】

## ○ 全体できき合う時間

道徳の授業で学んだことと実際の生活や行動がつながるように話し合うようにする。低学年では、自分の考えが伝えられることや友だちの考えを聞こうとすること、中学年では、友達の意見と相違点を理解しながらきき合うこと等、高学年では、児童同士で話を進め、教師は問い返しでより考えを深める支援をすることを大切にする。



【6年

チョモランマ清掃登山隊】

また、発表者の考えだけではなく、発表者の考えをきいてフロアの児童がどう思ったのかきくようにし、発表者とフロアの児童の考えの交流がなされるように心がけている。

## ○ タブレット端末を活用した「共有の時間」

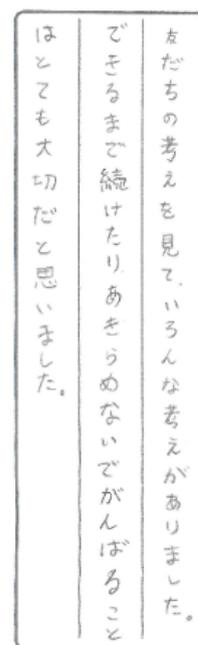
「共有の時間」に、MetaMoJi アプリ等を活用し、一人一人の考えをタブレット上で見ることによって共有している。友だちの考えを知り、自分の考えと比較することで、多様な考えに気付かせ、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に捉えたりして、これからの生き方について考えを深めることをねらいとしている。



【考えの交流の様子】

教材文の学習を通して、「自分だったらどうするか。」また「自分だったらどのように声をかけるか。」等について、自分の立場や考えをタブレット上に書く時間を確保する。共有する際には、友だちの考えを見るだけでなく、自分の考えと比較し、自分とは違った視点や理由に着目させ、友だちの考えから学んだり、それらの意見を取り入れて自分の考えを深めたりすることを大切にしている。

また、友だちの考えでいいと思う内容やキーワードがあれば、線を引いたり、印を付けたりすることで、きき合う時間の交流が活性化するように支援している。

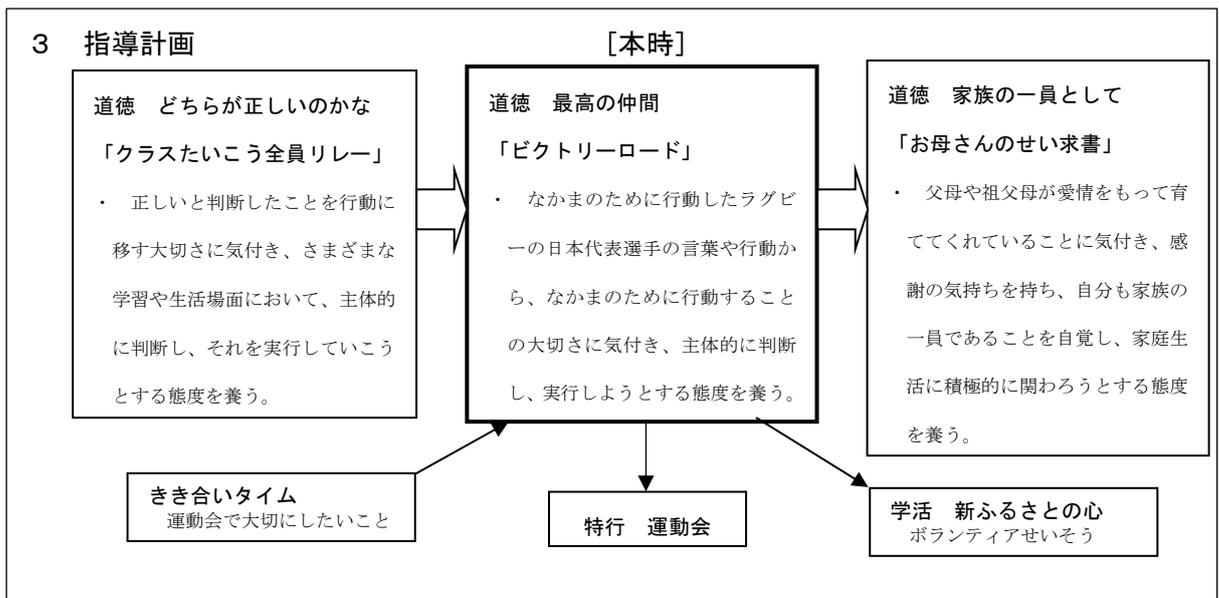


【共有後の感想】

## エ 全教育活動を通じた道徳教育の推進

### ○ 道徳の授業の単元化

道徳科の授業を単元化し、単元を通して、身に付けさせたい力を伸ばせるように重点的に指導を行っている。学習指導案上にも記載することで、教育活動全体を通して道徳教育を実践できるよう配慮している。



【学習指導案の指導計画】

視点2 自己を見つめたり、多面的・多角的に考えたりするための支援の工夫

(1) 自己を見つめ、生活につなぐための支援の工夫

- アンケートにより、普段の生活での自分と本時の授業を結びつける工夫  
6年「ブランコ乗りとピエロ」の学習では、事前アンケートで気付いた普段の生活の中の課題から、自分たちを見つめ、本時のめあてを立てることで、学習の意欲を高めていた。
- 実際にあった出来事や場面を提示する。
- 価値項目をテーマとして授業の導入で考えさせる。  
(例) 「友情」とはどんなものですか。等



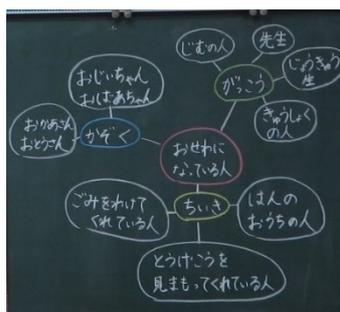
【事前アンケートと授業を結びつける】

(2) 多面的・多角的に考え、思考を深めるための支援の方法

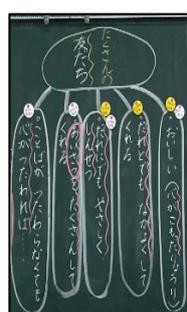
役割演技やモニタリングなどの議論することを通して、多面的・多角的な考えをきき合うことができるように指導の工夫を行う。ICT 機器や思考ツールを活用することで児童の思考を可視化し、友だちの考えをきくことで自分の考えを広げたり深めたりしていく。

○ 思考ツールの活用

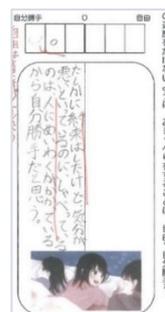
多面的・多角的に考えるための指導の工夫として、思考ツールを適宜活用するようにしている。自分の考えや葛藤している気持ちなどを整理したり、自分の立場を明確にしたりする上で有効である。



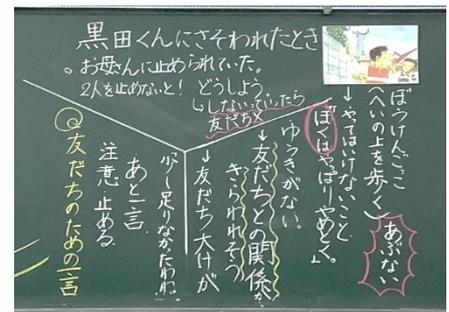
【ウェビングマップ】



【クラゲチャート】



【スケール】



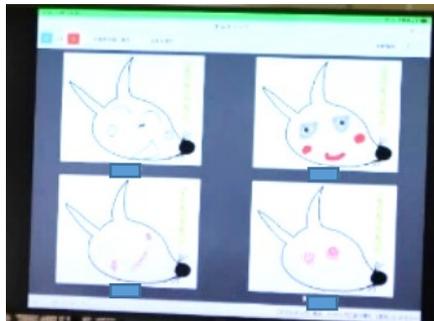
【Yチャート】

○ 登場人物の表情を想像してかき、モニタリングによる表出

1年「はしの上のおおかみ」の授業では、MetaMoJi アプリを使い、おおかみの表情を想像してかく活動を行った。おおかみの気持ちを表情に表し、視覚化することで、気持ちを言語化の際の大きな支援となった。



【おおかみの表情をかき】



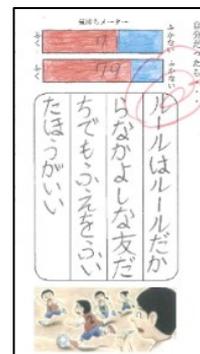
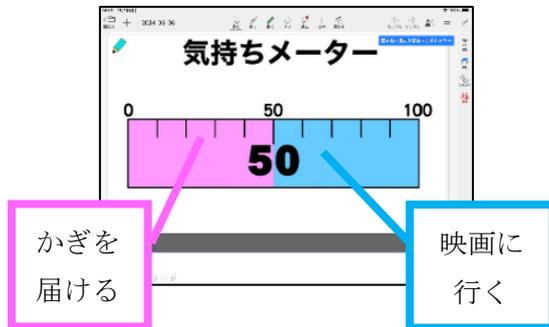
【モニタリング】

○ 気持ちメーター（熊本市教育センター）の活用

気持ちメーターを活用し、教材や生活の中の葛藤する場面や「自分だったらどうするか。」という気持ちを数値化し表出したり、理由をきき合ったりすることで、自己内対話をしやすくすると考える。ハートやものさしの気持ちメーターを用いて、どう行動するかを考えるときに使用した。例えば、2年「まいごのすず」では、「かぎを届けるか」「映画に行く」かを数値化して答え、その理由について話し合わせた。また、選択が同じでも、数値がちがう児童同士は、理由が少しちがいで、その理由を聞くことが児童にとって学びとなっていた。



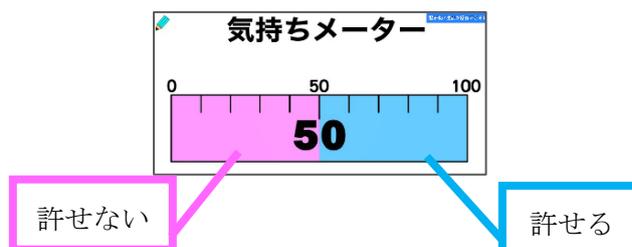
【気持ちメーターで気持ちを数値化】



【ワークシート】

○ 事前アンケートに気持ちメーターを活用し、モニタリングにより全体交流する。

事前アンケートの「自分の宝物をこわされたら、許せますか。」の設問に、気持ちメーターを活用した。事前に「自分だったら許せるか」と考えておいたことで、授業では、登場人物の心の葛藤を、より深く共感することができた。



○ 思考ツール上にクラス全員の名前磁石をおいて視覚化する。

### 視点3 自己の生き方について考えを深める時間の設定

#### (1) 自己の生き方につなげるための振り返りの時間のあり方

- 授業の終末に授業できき合ったことや自分の普段の生活を振り返る時間を大切にする。

振り返りの時間には、観点を示し、これからの自己の生き方について主体的に判断し、実践することに向かうように支援している。振り返りをかいた後、意見の交流を行い、児童の抽象的な言葉に対しては、教師による問い返しを行い、より具体的な行動を考えられるように工夫している。

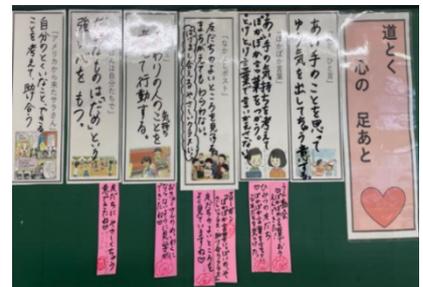
- ・ 振り返りの観点は、次の4点である。
  - ☆ 学習してわかったことや大切だと思ったこと
  - ☆ 友だちの考えを聞いて、すごいと思ったところや納得したこと
  - ☆ 今日学習する前と後で変わった思いや改善しようとする行動
  - ☆ 今日の学習をこれから生かしたいこと



- 日常化を図るための支援の工夫

- ・ 心の足あとの掲示（学びの足あとを残すため）

授業後には、学習したことを「心の足あと」としてまとめ、掲示をしている。また、学習したことが日常生活で実践できたときには、その内容も掲示することになっている。学習したことを実践したときに学級で喜び合ったり、学習したことを生かそうとする意欲を高めたりして自分たちの成長を実感させていきたい。



#### (2) 自己の生き方につなげるための指導計画の工夫

##### ア 「あこがられる存在」になることをめざし「自分から積極的に行動する」経験

- 児童会の積極的な取組

- ・ 全校生に運動会の練習を主体的に取り組ませるために



【全校生に練習のめあてを提示する児童会】



【できたねカード】

- ・ なかよし集会での全校遊びで全校生が楽しめるように

- 委員会や係の活動を主体的、積極的な取組へ
- 率先してリコーダー発表をする6年生
- 図工の作品展を進んで計画し、全校生を招待する2年生・4年生

## イ 他学年とかかわる場を積み重ね、「自立心」や「自信」をもたせる体験

### ○ 異学年交流



【1・6年生 春の遠足】



【2・5年 プールで交流】

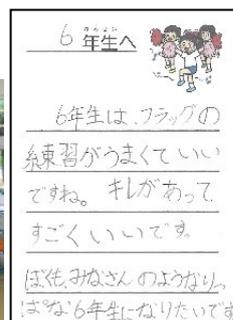


【3・4年運動会の合同ダンス】

### ○ 他学年との交流やメッセージのやり取りから絆を深めたり、自信を高めたりする活動

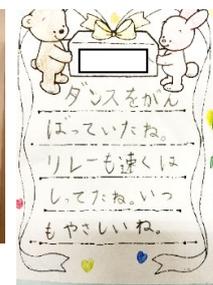
#### ・ 他学年からの「心の花」大作戦

「心の花」大作戦では、学校行事や異学年交流後、他学年同士でメッセージを書き、気持ちを伝え合っている。書く側は、喜んでもらいたいという思いで、相手をよく見て、具体的に書くようになった。また、書かれた側は、他学年から認められることや、あたたかい言葉をもらうことで、自信や新たなチャレンジにつながっている。



#### ・ 同じクラスの友だちからの「ひみつの友だち」

クラス内では「ひみつの友だち」でメッセージ交流をしている。尊敬しているところや感謝している点等、普段、なかなか言葉にできない気持ちを伝えている児童が多い。このように、人とかかわることで、自己の生き方について考えるきっかけの一つになるよう、継続していきたい。



## ウ 地域と連携した教育活動の充実

### ○ 古墳清掃



本校の校庭にある古墳は地域のシンボルの一つとして大切にされている。4月に6年生の児童と大野原古墳群保存会の方と古墳の清掃をしている。6年生の児童は道徳で「チョモランマ清掃登山隊」を学習したこともあり、「地域の古墳を自分たちの手できれいにできてうれしかった。」と「地域の環境保全に役立ててよかった。」と話していた。

また古墳祭りでは、地域の伝統や文化のよさを広げたいと古墳ナビゲーターになり、祭りに訪れた方々に古墳について説明を行った。

### ○ 古墳祭りでのナビゲーター



**学習指導案**

**2年「まいごのすず」(親切、思いやり)**

1 本時の学習指導

(1) ねらい

登場人物の気持ちを考えたり、互いの考えをきき合ったりする活動を通して、相手のことを考えて親切な行為をすることの大切さやすばらしさに気付き、進んで親切な行為をしていこうとする心情や態度を養う。

(2) 学習指導過程

	学習活動と児童の意識の流れ	○ 教師の手立て・指導上の留意点
つかむ	1 事前アンケートの結果から学習課題を考える。	○ 事前アンケートの結果から学級の状況を踏まえ、親切にされた時の気持ちを振り返らせる。
	親切にするには、どんな気持ちが必要なのだろう。	
↓	2 教材を読み、場面把握をする。 ・ 映画をととても楽しみにしていたんだな。 ・ このあと二人はどうするのかな。	○ 場面を理解し、ゆうきとまさやの気持ちに共感できるように挿絵を使う。
考える	3 ゆうきの気持ちを考える。 (1) 鍵を見つめているとき ・ 映画に行きたい気持ちもあるな。 ・ 届かないとモヤモヤするかな。 ・ 映画は見たいけど、かぎを届けた方がいいのかな。 ・ 困っている人がいたら、助けたいな。	発 ゆうきは、鍵を見つめているときどんな気持ちだったのだろう。 ☆ ゆうきの揺れ動く気持ちを視覚化するために、気持ちメーターを使う。
↓	(2) 学校に向かって駆け出したとき ・ 喜んでくれてうれしいな。 ・ 届けた人も、受け取った人もニコニコになっているな。 ・ 喜んでくれて気持ちがいいな。	○ 迷っている理由を明確にするために、気持ちメーターの色について、理由をかけるようにしておく。 発 鍵を届けたときにどんな話をしているのかな。 ○ 親切な行動をすると、相手も自分もいい気持ちになることに気付かせるために、役割演技をする。 ○ 親切にすることの気持ちよさを共感させるために、役割演技を見ている児童にも、どのように感じたか問いかける。
↓	4 学んだことを振り返り、これからの自分の生活について考える。	
まとめ	相手を思う気持ちが大切。	
↓	・ 親切な行動をして、相手も自分もいい気持ちになれるとうれしいな。 ・ 辛い思いや困っている人がいたら、たくさん助けたい。 ・ 一年生が喜んでくれてうれしいな。 ・ 周りの人のために進んで親切をしたいな。	○ 日常につなげるために、児童から出た意見や、キーワードをまとめる。 ○ 親切にした側の心地良さを、想起できるように、一年生からの手紙を読む。 (評) 学習したことを生かして、これからの自分の行動について具体的に考えることができたか。
振り返る		

**学習指導案**

**4年「へらぶなつり」(相互理解、寛容)**

1 本時の学習指導

(1) ねらい

自分の生活を振り返り、登場人物の言動について考えることを通して、広い心で周りの人の過ちや失敗を受け入れようとする態度を養う。

(2) 学習指導過程

	学習活動と児童の意識の流れ	○ 教師の手立て・指導上の留意点
つかむ	1 アンケート結果から、学習課題を設定する。 ・ これまでに、友だちの失敗を許せなかったことがあったな。 ・ 自分の意見ばかりを押し通していたな。	○ これまでの友だちの失敗を許せなかったり、自分と違う意見を認められなかったりした経験を振り返り、本時の学習課題につなげる。
	<b>相手をゆるすためには、どんな心が大切だろう。</b>	
↓ 考える	2 登場人物の気持ちについて考える。 (1) 何度も謝る健二に、耳を貸そうとしなかったときの明の気持ちを考える。 ・ 健二のせいで糸が切れたんだ。そのせいでぼくが怒られる。 (2) お父さんが明を許した理由を考える。 ・ 明が心から反省しているから。 ・ 失敗はだれにでもある。 ・ 明自身に気付いてほしいから。	○ 挿絵を用いて人物の関係を明確にする。 ○ 明が自分のことしか考えていないことに気付けるために、健二に対する気持ちを考えさせる。  発 お父さんは、なぜ明を許したのだろう。 ○ 相手を許すために何が大切か気付かせるため、クラゲチャートを使って考え、父が許した理由を板書上で整理する。 ○ 相手のことを分かろうとする父の言動に気付かせるために、明と父の考えを対比する。
↓ 学び合う	3 明の言動について考える。 (1) 電話で健二に言った言葉を考える。 ・ 健二のせいにしてごめん。ぼくが持ち出したのが悪かったんだ。 ・ わざとじゃないのに、責めてごめん。 ・ ぼくを助けようとしてくれたのに、無視して帰ってごめんね。 (2) 全体で交流する。 ・ 明は自分のことだけを考えていたことを反省したんだね。 ・ 健二のことも考えたから、明は謝ろうと思ったんだね。	発 明は、電話で健二に何と言っただろう。 ☆ 自分との相違点を見付けることができるようにするために、タブレット上で多様な友だちの意見を見られるようにする。 ○ 交流に生かせるようにするために、友だちのよいと思った意見に印をつけるように助言する。 ○ 多面的・多角的に考えることができるようにするために、なぜすぐに電話をしたのかを問い返す。 (評) 父の言動から学んだことをふまえて、明が電話で言った言葉を考えることができたか。
↓ まとめる	4 学習を通して、考えたことをまとめる。 ・ 相手の気持ちを考えることが必要だね。	○ 板書のキーワードをもとに振り返り、自分の言葉でまとめる。
	<b>相手の気持ちを分かろうと努力する心が大切。</b>	
↓ 振り返る	5 これからの行動について考える。 ・ これまではすぐ怒っていたけれど、これからは友だちの気持ちも聞いてみようと思う。そうすれば、みんなが笑顔で過ごせると思う。	○ 導入段階で提示したアンケートを振り返り、実生活に繋げる。 ○ ①これまでの自分は、②これから自分は、③友だちの考えからいいと思ったことの3つの視点で振り返らせる。 (評) これからの行動について、具体的に考えることができたか。

**学習指導案**

**6年「のりづけされた詩」(正直、誠実)**

**1 本時の学習指導**

(1) ねらい

自分の弱い心からくる過ちに気づき、主人公の立場で考えることを通して、誠実に生きようとする心情を育てる。

(2) 学習指導過程

	学習活動と児童の意識の流れ	○ 教師の手立て・指導上の留意点
つかむ	1 アンケートの結果から学習問題を設定する。 ・ 宿題をしていないのに、したとごまかしたことがある。 ・ 正直に言えなくて、もやもやしたことがあるよ。	○ 事前アンケートの結果を提示し、児童の実態から本時の課題につなげる。 ☆ ICT 機器で事前アンケートを提示することによって、これまで嘘やごまかしをしたことで、嫌な気持ちになった児童の割合の多さを実感させる。
↓	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     明るい心で生活するためには、どんなことが大切なのだろう。                 </div>	
考える	2 教材文をもとに話し合う。 (1) 児童が考えたい視点を確認する。 ・ 和枝が正直に言ったところ ・ 和枝のページに、一枚一枚のりづけされていたところ	○ 話し合う時間を十分確保し、児童の意識を大切にするために、児童の考えを把握しておく。 ○ 事前読みの際に見つけた、みんなで考えたい部分をクラスで共有する。
↓	(2) もし自分が和枝の立場だったらどうするか考える。	発 もし自分が和枝の立場なら、言いますか、言いませんか。
学び合う		☆ スケールをもとに、行動面は言う(赤)・言わない(青)で表し、心情面の葛藤を視覚的に捉えさせることで、話し合いが活性化するようにMetaMoJiを使う。 ○ 全体交流の際には、それぞれの立場の人に質問することで、多様な考えがあることに気付くよう、スケール内に理由を板書し整理する。 (評) 登場人物を自分と置き換えて考え、同じ状況でどうするか考えることができたか。
↓	(3) 和枝の言動のすばらしさについて話し合う。 ・ 自分の過ちを反省し、自分にできることを見つけて行動したこと	○ 誠実な和枝の言動から、正直・誠実に生きることの心地よさを感じ取らせる。 発 どうして、のりづけまでしたのだろう。
↓	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     うそやごまかしをせず、誠実な心で行動すること。                 </div>	
振り返る	3 本時の学習をもとに、自分の生き方について振り返る。 ・ うそやごまかしをせず、誠実に行動することで、すがすがしくなる。後悔が残らない。 ・ 誠実に明るい心で生活したい。	○ 具体例を挙げ、紹介することで「正直、誠実」についての理解を深め、実生活につなげるようにする。 (評) 学んだことから、これまでの経験を振り返り、今後の生き方について考えを深めることができる。

## 授業実践

### 2年「まいごのすず」（親切、思いやり）

「きき合う活動」では、かぎを届ける場面で「役割演技」を行った。教師が落とし主となり、届けてくれたことを喜び、感謝することで児童は親切に届けたときの心地よさを体感することができた。

その後、教師が「戻ってきてくれたの?」「予定はなかったの?」と再度問い返しを行うと、児童は「かぎを届ける方が大事だと思ったから。」「落としした人が困っていると思ったから。」と相手を思う気持ちを実感していた。



役割演技後のインタビューでは、人が喜んでいる姿をみたら、心がすっきりしたことや相手が喜んでいて自分もうれしくなったことを交流した。その際、フロアの児童にもインタビューを行い、落としした人も周りの人もみんながいい気持ちになることに気づき、内容項目である「親切、思いやり」への理解を深めることができたと感じた。

### 4年「へらぶなつり」（相互理解、寛容）

「きき合う活動」では、明が電話で健二に伝えたかった言葉を考える活動で「共有の時間」を取り入れた。自分の考えをタブレット上に書き友だちの考えをタブレット上で交流することで、たくさんの友達の考えを知ることができた。



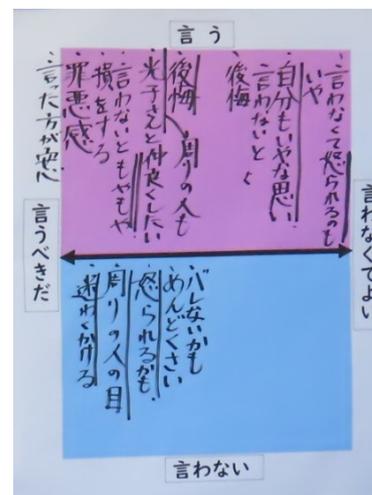
また、交流時にいいなと思った考えや自分と同じ考えだと思ったときに、一人一人の考えの下にあるグッドボタンを丸で囲むなど、交流した反応も表示できるようにした。

児童は、「共有の時間」の後、「〇〇さんのような考えがあることに気付いた。」「〇〇さんとほぼ同じ考えだったけど、□□というところがすごいと思いました。」等と、多様な考えに触れることで一人一人の考えの視野が広がり、多面的・多角的に考える支援になっていると感じた。

### 6年「のりづけされた詩」（正直、誠実）

「きき合う活動」の前に、「一人一人が考えを整理し、共有する時間」に考えの交流を行った。本文を読み、「自分が和枝なら、正直に言うかどうか。」について、自分の行動について考えた。そして、それをタブレット上の思考ツール「スケール」に、自分の考えを示し、理由を話し合った。

「自分が和枝なら」と考えることを通して、和枝の気持ちをより深く考えたり、一人一人が本音で語り、自己の生き方について一歩踏み込んで考えられたりする児童もいた。また、多様な考えや感じ方があることに触れ、人間のもつ弱さにも気づき、児童一人一人が多面的・多角的に考えることにつながったと考える。



## 4 研究の成果と課題（○成果 ●課題）

- 安心して本音をきき合うことができる学習集団となり、「きく」力が高まった。
- 「きくこと」から多様な考えに触れ、道徳的諸価値の理解を深めたり、他者と自己の考えを比較して、自己の生き方の課題を振り返ったりするなど、思考が深まった。
- 教員集団の授業観に対する意識が向上した。
- 児童が主体的に、理解をより深めるため、きき合うことができるよう、指導を工夫していきたい。